

【高等学校用】

令和2年度学校評価 結果

学校名	佐賀県立伊万里農林高等学校(【新設】佐賀県立伊万里実業高等学校 農林キャンパス)
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・服装頭髪を含めたマナー指導の取り組み、基礎学力の向上と定着など工夫や改善を要するものがある。</li> <li>・再編統合1年目であり、両キャンパス連携を図り学校運営を行ったが、一体感の醸成については今後も対応していかなければならない。</li> <li>・両キャンパス統一の基準はあるものの、運用については詳細を詰める必要があることもわかってきた。</li> <li>・従来の取組を引き継ぎながらも、新設高校の魅力づくりとして、両キャンパスの良さを尊重した新たな取組が必要である。</li> </ul>
2 学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○知・徳・体の調和のとれた人格の完成を目指すとともに、農業教育を通して豊かな心・勤労観・職業観を育み、地域社会の発展に貢献できる人材を育成する。</li> <li>○初代校長が示された「綱領」5か条(至誠一貫、勤労の習慣、敢為進取、規律遵守、心身鍛錬)を基本とする学校生活づくりをめざす。</li> </ul>
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆スローガン「農林マナーアップ宣言」～挨拶・服装・学ぶ姿勢マナーアップ～</li> <li>◇本校教育活動の基本姿勢「汗をかき・人とつながり・心を磨く」</li> <li>○基本的生活習慣の確立と「挨拶・身だしなみ・学ぶ姿勢」の向上を図る。</li> <li>○学校・学科の魅力づくりを推進し、地域からの信頼づくりに努める。</li> <li>○校舎制による円滑な学校運営を図るため、次年度を見据えた行事・業務の精練を随時行っていく。</li> </ul>

達成度(評価)
A : 十分達成できている
B : おおむね達成できている
C : やや不十分である
D : 不十分である

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価			
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
				達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○「朝学習の時間」の充実と学ぶ意識の向上 ○学びの場の整理整頓	○朝学習の時間に主体的に取り組む生徒の意識調査を行い、その割合を90%以上にする ○全生徒の年間での小テスト平均点を70点以上にする ○教室、実験実習の整理整頓及び掃除指導の徹底	・「朝学習」「朝読書」「小テスト」を年間計画の中に組み入れ、効果的な朝の学習体系を確立する ・日々の掃除指導の徹底(時間厳守と的確な指示)	B	・朝学習の成果を効果的に反映する設定にした結果、82.9%(昨年比10%向上)の生徒が前向きに取り組んだと回答した。しかしながら、職員アンケートでは55%であった ・クラスにより朝学習への取り組みに差があり、小テストの結果のクラス差が顕著であった。今年度より読書の回数を増やしたことで、朝の静かな雰囲気づくりにつながった ・生徒会による掃除5分前の放送とBGMが円滑な活動につながり、自主的に掃除に参加する生徒が増えた	B	・朝学習の取り組みにより、次の時間への取りかかりがスムーズになっている結果となっている。今後もさらに充実した取り組みとなるように期待したい
	○授業力の向上と授業改善 ○教員の専門性の向上	○授業時間の厳守 ○各学科における特色ある学習活動や取組の推進 ○専門教科に関連する資格取得の推進 ○教員の意識調査を行い、専門性が向上した教員を7割以上とする	・授業開始時間の徹底と教員相互間の声かけ ・生徒の興味関心を高める授業・実習の推進 ・専門教科資格の周知を図り、資格補習を実施する ・相互間の授業参観や専門性を高める研修会の実施	B	・生徒の83.8%が、興味関心をもって専門科目の授業・実習・資格取得に取り組んでいると回答した ・ICT利活用については、職員のアンケートで積極的に活用した12.5%、おおむね活用した57.5%と利活用頻度にバラツキが見られる。オンライン対応研修会は4回実施した ・ICT利活用週間や研究授業では多くの職員が参加し、効果的な指導方法について職員間で議論する場面もみられるようになった	B	・4年制大学進学希望者の減少傾向が気になる。様々な理由もあろうが、希望者には十分な指導をお願いしたい
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○ボランティア活動、他校種・異年齢交流による「豊かな心」の育成 ○農業教育を通じた「生命尊重の心」と「協働する心」の育成	・地域連携の取組やボランティア活動で地域の方々と触れあう ・人権・同和教育の講演会やHRをおとして、人間性豊かな生徒の育成を図る ・ケース会議の開催、情報共有	A	・Aコープ販売会や地域のスクールチャレンジの催しに参加し、学校生産物販売と広報活動をしている ・3学期入り県内でも感染者が増加したことから、偏見・差別に対する正しい知識、倫理観を身に付けるため、オンライン研修および校長講話、メール配信を複数回行った ・3学期末に地域清掃ボランティアを行う予定である	A	・農業に関する生産物販売会や広報活動において、生命の大切さや社会性が育まれているように感じる
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員を90%以上とする ○いじめを許さない雰囲気づくりに意識の向上を図るため、アンケートを毎学期に1回以上行う	・いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルを作成・見直しを行う ・LHRでいじめ防止標語作成を行い、いじめを許さない雰囲気づくりに努める ・初期のいじめ事象発見に努め、いじめ防止と人権尊重についての指導の徹底	B	・いじめ覚知後、校内対策員会を開催して情報共有を行った。今年度はいじめ認知は7件 ・いじめ防止等について組織的対応ができていると回答した教員97% ・5月、7月、1月にいじめの対応について、校内研修を行い、対応を確認することができた	B	・覚知後の情報共有や組織的対応体制ができている。今後は未然防止の取り組みを期待したい
	◎ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動	◎「佐賀県に誇りや愛着を感じる、どちらかというと感じ」と回答した生徒を80%以上 ○県内(地元への)就職率の向上と地域を支える人材の育成	・各地域の郷土学習資料や「佐賀語り」等を活用した授業に取り組む ・県内企業説明会への参加、県内企業への会社訪問・求人依頼を通じ、地元への就職率の向上と地域を支える人材の育成	A	・年間を通して朝学習の時間や授業で「佐賀語り」を活用したことで、佐賀の強み、魅力に気づく生徒が増えた ・3年生の就職希望者のうち、75%が地元および県内の企業に内定した ・専門分野に関する企業及び技術者の協力で、オンラインでの講演会、出前授業や現場見学を開催した	A	・コロナ禍においても様々な取り組みを実施されていた ・オンライン等を活用する場面も増加するであろう
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える生徒80%以上 ○朝食をとって登校する生徒90%以上	・生活状況調査、食に関する意識調査の実施 ・毎月1回の保健だよりの発行 ・保護者への個別の連絡	B	・保健だよりを毎月発行し、望ましい食習慣の形成ができるように食生活の重要性について9回触れた ・「健康に食事は大切である」と考える生徒は98.8%であり、前年度に比べて増加した	A	・食生活の大切さをわかりやすく指導していただいている。継続して欲しい
	○感染症予防に向けた危機意識の向上	○危機意識向上のための資料や掲示物の工夫と感染予防器具の整備	・eメッセージを活用した最新情報や注意喚起を行う ・感染予防に必要な物品の整備	A	・生徒、保護者へ感染症の注意喚起は、タイムリーかつ繰り返すことができた。また、体温計、マスク、消毒液の数量についてはさらに充実させることができた ・感染症についての知識や予防方法について、掲示物を工夫するなどし、情報提供を定期的に行った	A	・単なる情報伝達だけでなく、様々な取り組みの紹介なども発信されていることで保護者の安心感が増加したのでは
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する ○業務効率化の意識向上、メリハリをつけた業務実践 ○ワークライフバランスの実践	・時間外勤務の縮減のため、業務の分散化と協力体制の構築 ・定時退勤日を毎週水曜日に設定する ・夏休み期間に学校閉庁日を4日間設定する ・部活動休業日を平日1日、休日1日と設定する	B	・業務効率化の意識は向上しているため、今後も業務の分散化と協力体制の構築を図る ・全職員の時間外勤務時間の平均は31時間で昨年より約30分減少した。 ・学校閉庁日を4日間設定し、全員が夏休み5日間を取得した ・部活動休業日はほぼ達成している	B	・教職員の数が減少の中、大変であるが、業務環境の整理を行い、時間外勤務の減少に取り組んで欲しい

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価			
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
				達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
○基本的生活習慣の確立とマナーの向上	○授業におけるルール(約束事)の確立 ○学校生活全般を通じた「学ぶ姿勢」の確立	○基本的生活習慣の確立とマナーの向上 ○自己決定の場を与える ○自己存在感を与える ○共感的人間関係を育成する	・挨拶、身だしなみマナーの向上 ・分掌・教科・学年団が連携して指導の充実とクラス全体の雰囲気づくりに努め、事後指導の充実・徹底を図る ・生徒への積極的な声かけや関りを通じた関係づくり	B	・生徒アンケートで挨拶励行ができたと答えた者が77.6%(昨年比4.3%増)、相応しい身だしなみができていると答えた者が86.5%(昨年比11.2%増)。保護者・職員ともに昨年比でも改善されている。しかしながら、日頃の生徒の状況や職員アンケートではまだ徹底していないとの評価となっている	B	・以前と比較しても、挨拶を含めマナーも向上している
○魅力ある学科づくりと地域とのつながりの推進	○農林業の実習や商品開発・販売実習の充実 ○地域と連携した活動・交流活動の推進	○学科の専門学習への興味関心度80%以上をめざす ○農業文化祭や学校開放講座を充実させ来校者・参加者数の昨年比10%増加をめざす	・地域へのタイムリーな学校情報の発信(HP等) ・地域と連携した活動(新商品開発ほか)や交流活動等の推進	B	・学校紹介動画を作成し、700件近い閲覧数であった。また、他の学校情報も随時更新することで閲覧数が増加した ・「ねぎ麵プロジェクト」は全国ユース環境活動発表九州・沖縄大会にて特別賞を受賞した ・市役所と連携し、学科の魅力発信と生物販売のためスクールチャレンジへ参加した	B	・コロナ禍においても様々な取り組みを工夫して実施していただいていた。その成果は今後活かされることと思う
○校舎制による円滑な学校運営	○ひとつの学校としての一体感の醸成 ○次年度を見据えた行事・業務の精練を随時行う	○両キャンパスの生徒職員が一体感をもって、教育活動や指導支援に取り組むようにする ○次年度の行事・業務の50%のマニュアル化を図る	・新設高校の校訓・校歌の浸透、目的・効果や生徒の意識を踏まえた合同行事の開催と部活動の振興、両キャンパスを跨いだ授業担当の推進 ・今年度の行事・業務終了ごとに、次年度計画を立案する	B	・コロナ禍で合同行事ができなかったが、完成年度に向けて両キャンパス間での連絡・連携体制を各担当者で頻繁に行うことに努めた ・次年度に向けた取組の問題点を各校務分掌で検討し、両キャンパスでの共通理解を図るようにした	B	・次年度は完成年度となるため、更なる連携協力を確立してもらいたい。 ・保護者・評議員としても可能な限り協力していきたい

●...果共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育	
5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校教育目標を達成すべく本年度の重点目標を定め、各評価項目について取り組んだが、コロナ禍のために臨機応変の対応もあったが「概ね達成できた」と考える。</li> <li>○本年度は、生徒指導面での問題行動件数が大幅に減少し落ち着いた学校生活であったが、SNSを含むマナー指導や基本的生活習慣の確立、基礎学力の向上等、更なる工夫・改善を要するものもある。自ら学ぶ姿勢を身につけさせることが大切でありことから、次年度以降も改めて取り組みを充実させたい。</li> <li>○次年度からは再編完成年度となるため、商業キャンパスとの連携を円滑に実施して、両キャンパスの強みを活かした興味・関心の高まる教育課程を編成し、農業教育の活性化を図りたい。</li> </ul>